

サービス用機器（パチンコ・スロットマシン）に関する年次推計の検討

令和元年6月14日
内閣府経済社会総合研究所

1. 経緯

これまで「公的統計の整備に関する基本的な計画」（第Ⅲ期）に基づき、第一次年次推計から第二次年次推計の改定に係る影響について議論してきたところであるが、先月16日に開催された産業統計部会における宮川部会長の御発言を踏まえ、内閣府にてパチンコ・スロットマシンに関する年次推計の検討を行った。

2. 推計方法

部会長から、資本蓄積式 ($K_t = (1 - \delta) K_{t-1} + I_t$) を応用する旨の御示唆をいただき、直近5年について試算を行った。

(1) 基準年のパチンコ・スロットの一台当たり単価を公表資料から算出

- ・ 2015年を基準年として採用
- ・ 販売金額及び販売台数について、5社の事業年度を四半期情報で暦年換算をした後、
- ・ 基準年の一台当たり単価 (P_{2015}) はそれぞれ
パチンコ (35万7,589円)
スロット (43万9,708円)

(2) 基準年以外は「CGPI」を用いて、価格を (P_t) を再現

(3) 警察庁の遊技機等設置数 (H_t) に (2) の単価を乗じ、資産額 ($K_t = H_t \times P_t$) を推計

- ・ なお、基準年(2015年)でみた資産額 (K_{2015}) は、
パチンコ (1兆436億円)
スロット (7,306億円)
合計 (1兆7,742億円)

(4) 資産額 (K_t) の前期・当期差とフローの投資である「工業統計」 (I_t) から、減耗額 (D_t) 及び減耗率 (δ_t) を算出

- ・ 減耗率 (δ_t) については、2015年以前は60%台だが、2016年に40%台半ばに急低下

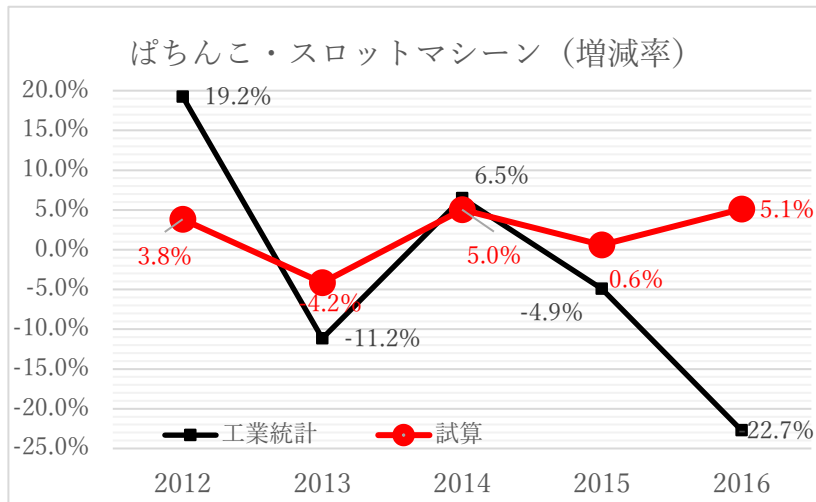
(5) 減耗率 (δ_t) と資産額 ($K_{t,t-1}$) から、フローの推計値 (の伸び率) (I_t) を計算

- ・ 基準年 (δ_{2015} , 60%) を利用
- ・ 結果は、次の3. のとおり。

3. 評価

(1) 結果

赤線が今回の試算値であるが、黒線の工業統計とは動きが異なっている。



(2) 論点

既存の統計・データを組み合わせて推計を試みた結果、上記(1)となった原因を考えると、以下の論点が挙げられる。

- ① 工業統計自体が「パチンコ、スロットマシン」(272211)として両者を一本で扱っているが、設置台数(ストック)で見ても、パチンコは減少している一方、スロットは増加していることから、別々に扱うことが望ましいと考えられる。
- ② このため、両者を何らかのウェイトで分ける際に、フローの値を求めるにもかかわらず、その分割に必要な情報がストック(設置台数)しかない。
- ③ 同様に、価格情報も、C G P Iの「娯楽機器」は、パチンコ・スロットマシンだけでなく、他の機器(272212, 13, 19)も含んでいるため、工業統計が内包している価格情報と異なる(当然、5社の集計値とも異なる)。
- ④ また、サンプリングで単価を出す際に、出荷台数と販売金額の両方を公表しているメーカーは5社しかない上、その中でも販売台数を丸めて公表している社もある。
- ⑤ なお、2012~16年を見ただけでも、パチンコ・スロットマシン製造業は、規制による業界全体への影響もみられるなど変動が激しく、安定的なパラメーターが得られにくい産業と思われる。

(3) 結論

御示唆いただいた推計方法が理論的に妥当なものであることから、上記(2)①~④で示した論点が大幅に改善されない限り、推計方法の工夫だけで、統計として適切な値を求めることは困難であると考えられる。